

作文の部

仙石原小学校 六年 西村 侑嗣

登下校の時間に広がる箱根の美化

その活動は私が五年生のとき、同じクラスのレイラニさんの一言から始まった。

「先生。このごみぶくろで登下校のときに、ごみ拾いをして、この箱根をきれいにしましょう。」

その言葉がきっかけで、登下校中に五年生全員でごみ拾いをするようになった。今でも彫我(たが)さんを中心に気が付いたときにごみ拾いをしてる人たちがいる。

私は昨年、このコンクールで受賞してから自分たちで



き、箱根の美化に貢献できることはないかいつも考えていた。だからこそレイラニさんがさりげなく言った言葉が私のしたいことだと思つた。「箱根のわかりやすい予算」によると、箱根町の人口は約一万二千人。一年間に訪れる観光客数は二十万人以上。これにより、箱根町の一年あたりのごみの量は、人口が五万人以上の都市とほぼ同じになるそうだ。そのため、ごみ処理の費用もたくさんかかる。

そこで私は、クラスで始まっているこの活動をぜひ観光客の方にも広める方法を考えたい。世の中ではすでに、買い物時のマイバッグ持参が広がっている。これと同じように、箱根のような美しい自然の広がる観光地には、「マイごみバッグ」を持参し、自分で出したごみは自分で持ち帰るようになる、よいのではないかと考えている。そのためにも、仙石原小学校の私のクラスで始まっている活動を仙石原小学校全体に広め、やがては、町内の全ての小中学校に広められたら、その姿を多くの観光客の方に見てもらえると思う。

標語の部

箱根の森小学校 一年 大澤 迅

ヒメマスのちぎよ  
ほうりゅうしたよ  
あしのこに。

きみのため  
ぼくは みずをよごさない。



箱根にはマーチングバンド箱根21という小さなバンドがある。私はこのバンドの部員の一人だ。そして毎週土曜日には湯本小学校で練習を行っている。今年で入部して四年目。最初は全く演奏できなかった楽器も今はあたりまえのように演奏できる。これは三年生のときからの努力が積み重なっているからだと思う。

レイラニさんのさりげない一言で小さい美化活動が始まった。でもこの活動を続けていけば、やがて大きな活動になり、箱根の美化につながると思う。私はこの活動を続け、箱根町全体そして、箱根に訪れる観光客の方々にも広めたい。そして、観光美化・自然愛護に貢献したい。

箱根の自然

作文の部

函嶺白百合学園中学校 三年 松本 帆花

『箱根八里』言わずもがな、有名な作曲家、滝廉太郎の曲だ。毎日午後四時半になると、山々に響きわたり、誰もが一度は口ずさむことがあるだろう。また、人によっては音楽の授業で習うこともあるのかもしれない。

そんな有名な『箱根八里』その歌詞には次のような一節がある。

「萬丈の山。千仞の谷」非常に高い山。非常に深い谷という意味だ。この歌詞からもうかがえるように、箱根は昔から自然豊かな緑の溢れる土地である。

そのほかにも、恵まれた温泉。四季折々の表情を見せる山々。そしてその山すそを縫うように走る、燃えるような赤色の登山電車。など数多くの自然を生かし、自然の恩恵に預かり、人々は工夫をしてきた。

では、私たちの箱根を未来

永劫守るためにはどうしたらよいのか。まず私が思いついたのは、自然に感謝すること。この気持ちさえ忘れなければ、いつまでも美しい箱根でいられるだろう。一言感謝すると言っても、ただ感謝すればよいというわけではない。もし、大涌谷が一度噴火したならば、そこに住むことは不可能であろう。私たち人間は、自然に感謝するとともに、また畏敬の念を持たなければならぬ。自然と共存するということは、とても難しいことだ。それでも一人一人のほんの少しの気持ちや、より良い環境を産み出すのではないかと思う。

永劫守るためにはどうしたらよいのか。まず私が思いついたのは、自然に感謝すること。この気持ちさえ忘れなければ、いつまでも美しい箱根でいられるだろう。一言感謝すると言っても、ただ感謝すればよいというわけではない。もし、大涌谷が一度噴火したならば、そこに住むことは不可能であろう。私たち人間は、自然に感謝するとともに、また畏敬の念を持たなければならぬ。自然と共存するということは、とても難しいことだ。それでも一人一人のほんの少しの気持ちや、より良い環境を産み出すのではないかと思う。

しまない気持ちで今の箱根を作っていると言っても過言ではない。たくさんの人に思われるからこそ、箱根にゴミが少ない理由の一つだと思つた。私は中学に入学し、約二年間美化委員に所属している。きっかけは、私がいつもお世話話になっている校舎や箱根の町をきれいにしたいと思つたからだ。美化委員の仕事は、主に行事前の清掃、ゴミ捨てだ。そのほかにも、どうしたら、もっと学校をきれいにできるか、どうしたら、皆がやる気を持って掃除に取り組んでくれるかを考えている。解決策として美化ポスターはもちろんのこと、掃除前の呼び

かけや、掃除が楽しくなるような音楽をかけている。正直美化委員の仕事は大変だが、とてもやりがいがあり、何よりも誰かの役に立っていることがうれしい。

また、学校では、毎週水曜日の放課後に全校生徒が当番制で、強羅駅周辺、通学路の清掃をする「白百合会」というものがある。先輩、後輩と協力し合いながらする清掃は絆を深めることができ、よいものだと思う。

私はその日、白百合会の当番だった。その日は、満開だった桜も、すっかり散ってしまった道路が一面散った花びらでピンク色になっていた。

私は掃除するのがもったいないと思いつつも、ほうきで掃いていると、私の側を通った観光客の方が、「ごくろう様です。私たちのためにありがとうございます」と言ってくださり、私は温かい気持ちになった。そんな何げない一言でも言われた側の心は、春の日差しのようにポカポカと暖かくなる。だから、私はもしボランティアで掃除をしている方を見かけたら、迷わずに「ありがとうございます」と感謝の言葉を言いたいと思う。

私は箱根の自然が大好きだ。だが私たちの周りには、常に「地球温暖化」「森林の減少」「海面上昇」など、いくつもの問題がある。これらの問題を子孫に引き継がせないためにも、今を生きる私たちが、地球環境問題を身近なものだと意識することが大切だ。最後に私の思い『箱根の自然がいつまでも美しく、人々に愛され続ける観光地であること』を願う。

